

# TORINO

19-25  
OCTOBER  
2018

# JAPAN WEEK





## ご挨拶

青く澄みきった空、汗ばむほどの陽気に恵まれて、43回目となるジャパンウィークが開幕を迎えました。三十有余年前、初めての大規模な草の根レベルの国際交流イベントとしてイタリア フローレンスで産声をあげてから文化・芸術の集積が進むイタリアでの四度目となる開催に、期待と不安を織り交ぜながらの準備期間でした。

このような中、「第43回ジャパンウィーク 2018年イタリア・トリノ」が10月19日から25日までの7日間開催され、日本から54団体1,007名の方に参加いただき、約2万人の方に来場いただきました。長い歴史と才能に育まれたイタリアは、今回もまた日本から参加され

た方々に多くの刺激を与え、多くのトリノ市民が日本文化への高い関心を示しながら会場へ参集いただきました。トリノの方々、イタリアの方々と交流を深めようという参加者の熱い想いを、トリノ市民は異なる文化であっても秀でたものは正当に評価する姿勢で迎え入れ、真に質の高い相互交流が実現でき、それぞれの胸にかけがえのない思い出を作られたことと思います。

ジャパンウィークを通じて築いたそれぞれの心の灯が、今後の両国の結びつきの一助になれば幸いです。

## イベント概要

**開催地** イタリア共和国 トリノ市

**開催期間** 2018年10月19日（金）～10月25日（木）

**開催規模** 日本側参加者 1,007人 イタリア側見学者約 21,000人

**主催** 公益財団法人 国際親善協会

**後援** ミラノ日本国総領事館、国土交通省、文部科学省、農林水産省、イタリア共和国外務省、イタリア政府観光局、トリノ観光局、日本政府観光局（JNTO）、独立行政法人国際交流基金、日本貿易振興機構（ジェトロ）、一般財団法人自治体国際化協会、一般財団法人地域伝統芸能活用センター、一般社団法人日本海外協会

**助成** 公益財団法人 双日国際交流財団

**協賛** 日本航空株式会社、損害保険ジャパン日本興亜株式会社、株式会社みずほ銀行、西日本旅客鉄道株式会社、東海旅客鉄道株式会社、株式会社日本旅行

# 参加団体一覧

北海道	端唄花季会 北海道支部
岩手県	ASSOBOO アッソブゥー
宮城県	イエーリ・オッジ・ドマーニ・ヒロシ
茨城県	楽知会
栃木県	岩橋知子押し花教室
埼玉県	長沼静きもの学院熊谷校 長瀬算命館 いけ花教室
千葉県	陶貴の会
東京都	REIKO & NAOMI 学生よさこいチーム おどりんちゅ Stars with 三重アクターズ養成所 剣伎衆かむゐ 小林 未都 ソプラノデュオユニット いろは・iroha 岩本和哉 一般社団法人 日本ダイバーシティアート学会 一般社団法人 awa 酒協会 赤坂なでしこ会 池依 依依 株式会社 アートクロス 表千家茶道花乃会 永見隆幸 & メリー・アーティスト・カンパニー
静岡県	専門学校ルネサンス・デザイン アカデミー 辻清子の店 静岡大学 管弦楽団 煎茶道静風流

愛知県	愛知淑徳大学ウィンドオーケストラ 師勝太鼓「鼓っつ」 金城学院大学書道部 オリママ ビーズの会 チーム・オリエンタル和装 名古屋市
富山県	藤保会
福井県	福井おむすび同好会
京都府	陶芸教室アトリエY(イグレック) 京都大学キャップ投げ倶楽部 京都よさこい連 心粋 同志社大学 マジック & ジャグリングサークル Hocus-Pocus
大阪府	関西学院大学絵画部弦月会
岡山県	備前長船 Japanese Sword
徳島県	NPO 法人 太鼓の楽校 太鼓一家 あわ工芸座 徳島県立阿南工業・阿南光高等学校
愛媛県	琴梢会
福岡県	日旅連九州連合会
熊本県	熊本県立大学国際倶楽部
沖縄県	八重山古典音楽研究会・日旅連沖縄支部連合会
イギリス	Yoko Hallejulah
その他	見学3 団体

合計 53 団体

# 実行委員会

日本側	
実行委員長	愛知和男 元衆議院議員／公益財団法人 国際親善協会 会長
名誉顧問	両宮雄治 在ミラノ日本国総領事
理事	岡本 保 一般財団法人 自治体国際化協会 理事長／公益財団法人 国際親善協会 評議員
理事	今村忠雄 一般社団法人 日本海外協会 会長／公益財団法人 国際親善協会 評議員
理事	来島達夫 西日本旅客鉄道株式会社代表取締役社長
理事	二宮雅也 損害保険ジャパン日本興亜株式会社 代表取締役会長／公益財団法人 国際親善協会 理事
理事	柏 頼之 日本航空株式会社 執行役員／公益財団法人 国際親善協会 理事
理事	堀坂明弘 株式会社日本旅行 代表取締役社長／公益財団法人 国際親善協会 理事
事務局長	成住俊助 公益財団法人 国際親善協会 常務理事

(順不同)

イタリア側	
実行委員長	Ms Chiara Appendino (キアラ・アッペンディーノ) トリノ市長
理事	Mr Alberto Sacco (アルベルト・サッコ) トリノ市貿易、イベント推進、観光担当評議員
理事	Ms Francesca Leon (フランチェスカ・レオン) トリノ市文化担当評議員
理事	Mr Giuseppe Ferrari (ジュゼッペ・フェッラーリ) トリノ市副理事
理事	Mr Emilio Agagliati (エミリオ・アガリヤーティ) トリノ市文化部部长
理事	Ms Paola Virano (パオラ・ヴィラーノ) トリノ市貿易、労働、観光部部长

## 1. ジャパンウィーク運営組織について

ジャパンウィーク 2018 年イタリア・トリノは日本・イタリアの両国に各々実行委員会を組織し、日本側は愛知和男公益財団法人国際親善協会会長が実行委員長を務め、イタリア側はキアラ・アッペンディーノトリノ市長を実行委員長とし、両国事務局互いの協力のもと、開催会場・施設の決定や告知 PR 活動・イベントの取り纏めなどを推し進めた。特に開催会場・施設については各実施予定のプログラムの主旨をトリノ市に理解していただき、トリノ市の特色のあるイベント会場を市の中心部にご用意頂いた。

日本より都合 6 回に亘る現地打ち合わせ、一年以上に亘る日々の情報交換 諸々の折衝を行い相互の協力体制を着々と築き上げ成功へのステップを確かなものにしていった。

日本側では 2017 年の秋より全国に招致活動・告知活動を開始し、並行して関係資料の作成・説明会の実施などを行った。また参加団体応募の後は各団体と参加するプログラムについての打ち合わせ、荷物の輸送方法、各種公式行事や訪問交流先のアレンジなど数多くの業務をこなしてきた。また、イタリア側では各参加団体がトリノ市で日本と同様に公演・展示・実演等が出来るよう各種許認可を取得していただいた。

## 2. 各イベントプログラム

10月19日(金)の16:00よりトリノ市中心部のカステッロ広場での特設ステージにてジャパンウィーク2018年イタリア・トリノの幕があげた。当日の18:00からはトリノ市が日本の参加者を歓迎するウェルカムレセプションがテアトロ・レージョにて実施された。展示・実演は20日(土)のリボンカッティングセレモニーに始まり、24日(水)までトリノ東洋美術館にて実施された。

茶道実演は展示・実演とは別会場のマグマ宮殿にて20日(土)から3日間実施された。また、同じ20日(土)の夜から舞台公演がテアトロ・ピッコロ・レージョ・プッチーニにてスタートし、25日(木)まで6日間開催された。

訪問交流プログラムについては、学校は8団体、老人ホームは4団体、テーマ別の交流プログラムについては5団体が参加し、各団体ともに心のこもった草の根交流となった。

毎年参加いただいている西日本友好親善訪問団は、交流イベントおよびトリノナイトにて大いに親善交流の輪を広げていただいた。

## 3. 在ミラノ日本国総領事館のご協力とボランティアの活躍

今回のジャパンウィークが大盛況に終えることができたのはひとえに公式行事にご臨席を賜りました両宮雄治在ミラノ日本国総領事をはじめとした総領事館の皆様のご協力による賜物であります。

また、今回も数多くのボランティアの方々に協力して頂きました。各イベント会場にて、延べ 400 人以上の方々がジャパンウィークの運営スタッフの一員として朝早くから夜遅くまで本当に頑張って頂きました。ボランティアの方々の協力無くして、ジャパンウィークの成功はありえなかったと言っても過言ではありません。





## 4. スタッフおよびご協力いただいた方々

トリノでのジャパンウィーク開催が決定してからイベントが終了するまで、以下の方々に実務上のきめこまやかな打ち合わせと準備で大変ご協力いただき、今回のジャパンウィークの成功へと導いた。

**City of Torino**  
 Ms. Fortunata Armocida  
 Ms. Francesca Marceddu  
 Ms. Anna Maria Bertolotti  
 Ms. Antonella Detta

**コーディネーター**  
 小澄明日香

## 5. 広報・告知について

現地側広報・告知に関しては、トリノ市にご協力いただいたおかげで期待以上の観客数であった。以下が関係各機関にご協力いただいた広報・告知活動である。

### 1. メディアでのプロモーション

- ①トリノ市専用 Web サイトでのジャパンウィークPR
- ②トリノ市運営の Facebook によるジャパンウィークPR

### 2. トリノ市によるジャパンウィークの「記者会見」を 10月5日に実施

- ①記者会見当日の在ミラノ日本国総領事館及びトリノ市幹部によるジャパンウィークの説明と動画での案内
- ②記者会見後、各種メディアでの記者会見の記事放送、および掲載
  - ・全国紙「La Stampa」(10月6日)
  - ・国営放送 RAI での TV 放送(10月16日)
  - ・各種インターネットニュースサイト

### 3. PR ツール作成およびその配布

- ①トリノ市専用 Web サイトでのジャパンウィークPR
  - ・全国版大衆紙「LA STAMPA」(10月6日)
  - ・国営放送 RAI での TV 放送(10月16日)
- ②動画看板 (MUPI) での掲出
- ③ジャパンウィークパンフレットの配布
  - ・ジャパンウィークのパンフレットを作成し、市内インフォメーションセンター等での配布

### 4. 全国版大衆紙「LA STAMPA」にて 2 回記事掲載

# オープニングフェスティバル



**日 時** 2018年10月19日(金)

(第1部) 16:00～16:30 パフォーマンス

(第2部) 16:30～17:00 セレモニー

(第3部) 17:00～17:45 パフォーマンス

**場 所** カステッロ広場特設ステージ

**観 客 数** 約11,000名

**日 本 側** 愛知和男会長、雨宮雄治在ミラノ日本国総領事、二宮雅也理事、柏頼之理事、堀坂明弘理事

**イタリア側** Chiara Appendino トリノ市長、Alberto Sacco トリノ市貿易・イベント推進・観光担当評議員、Francesca Leon トリノ市文化担当評議員

**参 加 者** (第1部) 16:00～16:30 パフォーマンス  
金城学院大学書道部、師勝太鼓「鼓っつ」

(第3部) 17:00～17:45 パフォーマンス

剣伎衆かむみ、NPO 法人太鼓の楽校太鼓一家、  
学生よさこいチームおどりんちゅ、京都よさこい連 心粋

〈第1部〉晴天に恵まれまだ日差しの強いなか、金城学院大学書道部の書道パフォーマンスから今年のジャパンウィークがスタートした。開幕前から会場に集まっていた大勢の観客を大いに盛り上げた。続いて、師勝太鼓「鼓っつ」による威勢のよい和太鼓演奏でオープニングフェスティバルの第1部を締めくくった。

〈第2部〉師勝太鼓「鼓っつ」による迫力ある和太鼓演奏後に司会者が登壇し、両国の実行委員会の出席者を紹介後、スピーチが行われた。アルベルト・サッコ評議員、雨宮雄治在ミラノ日本国総領事、キアラ・アッペンディーノトリノ市長のスピーチと続き、最後に愛知和男会長がジャパンウィーク2018年イタリア・トリノ開幕の開会宣言を行った。

〈第3部〉開会宣言の後に突然の侍登場、剣伎衆かむみのサムライショーには大きな拍手が贈られた。続いてNPO法人太鼓の楽校太鼓一家による激しい太鼓のリズムと書道の共演に観客は大いに盛り上がった。最後は学生よさこいチームおどりんちゅと京都よさこい連 心粋の総勢100人近い大人数によるエネルギー溢れる迫力のあるよさこいの演舞。観客に近いステージ下でのパフォーマンスに会場は熱気に包まれた。大成功を予感させるに十分なすばらしいオープニングフェスティバルだった。

# ウェルカムレセプション



**日 時** 2018年10月19日(金) 18:00～19:30

**場 所** テアトロ・レージョ

**参加団体** 29団体(参加証書授与団体数)

**日 本 側** 愛知和男会長、雨宮雄治在ミラノ日本国総領事、二宮雅也理事、柏頼之理事、堀坂明弘理事

**イタリア側** Francesca Leon トリノ市文化担当評議員、Emilio Agagliati トリノ市文化部部长

ウェルカムレセプションが開場すると日本側実行委員会が会場入口にて日本からの参加者を出迎えた。そして会場内では一人一人に日本から持参したAwa酒がドリンクとして手渡された。

最初に両国実行委員会メンバーの紹介があり、フランチェスカ・レオン評議員の歓迎の挨拶でスタートし、その後雨宮雄治在ミラノ日本国総領事、愛知会長によるスピーチと続いた。そして、フランチェスカ・レオン評議員と愛知会長とのプレゼント交換終了後、両国の実行委員会メンバーは酒樽の鏡開きを行い、日本の乾杯酒Awa酒で参加者一同と乾杯した。セレモニーの最後として参加団体の代表がステージに登壇し、フランチェスカ・レオン評議員、エミリオ・アガリャーティ文化部部长、愛知会長によって参加証書が手渡された。

参加証書授与終了後、参加者はトリノ市にご用意いただいたトリノ市があるピエモンテ州名産の白ワインやカナッペ等を楽しみ、歓談のひとときを過ごした。トリノ市招待の訪問交流先の学校や老人ホーム、ジャパンウィーク各会場の関係者等イタリア側参加者もレセプションに参加しており、日本側参加者との交流が早速始まっていた。ジャパンウィークの公式行事として、とても楽しく華やかなプログラムであった。





# 舞台公演

トリノ市内中心部テアトロ・ピッコロ・レジジョ・プッチーニにて、10月20日(土)～25日(木)の6日間舞台公演を実施した。公演の予約は10月5日の記者会見の後、ジャパンウィークの特設ホームページ上で開始した。事前にすべての公演日の予約が完売し、万全の準備を整え開幕した。

舞台公演の当日には予約が取れなかった多くの方が当日入場出来ることを期待して会場に詰めかけていた。公演開始前には当日来場していた方も入場することが出来き、結果週末はほぼ満席、平日も約8割の客席が埋まった。来場者は老若男女にわたり、来場の皆様には十分に公演を楽しんでいただいた。また、連日異なる公演内容のため複数回観に来られた方やジャパンウィークの訪問交流プログラムで訪れた先で興味を持った方が来場する等、日本文化に興味をもってもらう機会をトリノ市民に提供することができた。会場での鳴りやまない拍手に各参加団体は演技終了後、感動と感激に満ち溢れ、このイベントの成功を確認することができた。

また、劇場スタッフはイタリアでも名門の劇場の一員であることもあり非常にレベルが高く、各参加団体とも無事に日頃の成果を披露することが出来た。舞台公演は大成功となった。トリノ市民に感謝します。

**日 時** 10月20日(土) 20:30～23:30

**場 所** テアトロ・ピッコロ・レジジョ・プッチーニ

**参加者** あわ工芸座、八重山古典音楽研究会・日旅連沖縄支部連合会、小林末都、京都よさこい連 心粋、師勝太鼓「鼓っつ」

舞台公演初日 最初の演目は徳島の伝統芸能『あわ工芸座』による阿波人形浄瑠璃。義太夫節の語りと三味線の調べにのせた人形浄瑠璃は独特な世界観を作り上げた。続いての演目は美しい悠久な大自然の沖縄・八重山諸島の映像をバックに琉球古典民謡と三線の演奏を『八重山古典音楽研究会』が披露。続いての演目は多数のサウンドトラックにボーカリストとして参加して有名なシンガーソングライター『小林末都』が繊細なタッチのピアノ演奏と悲しく切ないオリジナル楽曲を清涼な声で歌い上げた。続いての演目は『京都よさこい連 心粋』による飛梅伝説をモチーフにした京都の大学生によるダイナミックな3部構成の演舞の披露。菅原道真が別れの際に読んだ和歌を学生がダイナミックに演じた。初日最後の演目は日本の伝統文化の和太鼓。太鼓の歴史を重んじつつも、演者自身が率先して楽しむ演奏スタイルの和太鼓サークル『師勝太鼓「鼓っつ」』による和気あいあいとした和太鼓の演奏で幕をおろした。



**日 時** 10月21日(日) 17:00～20:00

**場 所** テアトロ・ピッコロ・レジジョ・プッチーニ

**参加者** 金城学院大学書道部、長沼静きもの学院熊谷校、備前長船JapaneseSword、学生よさこいチームおどりんちゅ、NPO法人太鼓の楽校太鼓一家

舞台公演二日目 最初の演目は『金城学院大学書道部』の書道に音楽と踊りでアレンジしたリズムカルで息の合った書道ガールによる書道パフォーマンス。日伊の友好関係に願いをこめ作品を書き上げた。続いての演目は、『長沼静きもの学院熊谷校』による四季折々、子供の成長や催事にあわせた日本の和服、振袖、袴など着物の紹介と着付けショー。トリノの皆様もモデルとしてご登壇。続いての演目は、日本刀の聖地、備前国長船から『備前長船 JapaneseSword』。サムライアーチスト剣伎衆による本格的な剣舞ショーと岡山県瀬戸内市の備前長船の名刀と刀匠の紹介。会場は一振りごとの剣さばきに釘付けとなった。続いての演目は、学生から日本を元気にをテーマに活躍する『学生よさこいチームおどりんちゅ』が新作羅針盤をダイナミックな演舞で披露。二日目最後の演目は『NPO 法人太鼓の楽校太鼓一家』による和太鼓と書道。その響きを通じて郷土芸能の素晴らしさや日本の心をトリノの人にお届けした。





**日 時** 10月22日(月) 20:30～22:40

**場 所** テアトロ・ピッコロ・レッジョ・プッチーニ

**参加者** 愛知淑徳大学ウィンドオーケストラ、Stars with 三重アクターズ養成所  
端唄花季会北海道支部

舞台公演三日目は『愛知淑徳大学ウィンドオーケストラ』の演奏から幕を開けた。日本を代表する吹奏楽曲の演奏から始まり、後半はポップス曲を吹奏楽にアレンジした楽曲を、大学生らしい軽快な演奏を披露した。休憩をはさみ、後半の舞台は『Stars with 三重アクターズ養成所』のダンスステージからスタート。曲に合わせた子供たちのはつらつとしたダンスと大人による日本舞踊を取り入れたバリエーション豊かな踊りで日本の季節の移り変わりを表現し観客を大いに沸かせた。最後は『端唄花季会北海道支部』による、端唄と三味線による日本の伝統芸能を披露。多くの観客にとっては初めて端唄に聞き入っており、カーテンコールでは大きな拍手が送られた。今日から平日の公演となったが、引き続き子供連れの家族もいて週末とあまり変わらない混雑状況。3日連続で舞台公演を観に来ているという観客もおり、異なる演目を毎日楽しんでいて残りの公演も観に来るとのことだった。

**日 時** 10月24日(水) 20:30～22:40

**場 所** テアトロ・ピッコロ・レッジョ・プッチーニ

**参加者** イエーリ・オッジ・ドマーニ・ヒロシ、Yoko Hallelujah、  
REIKO & NAOMI、剣伎衆かむみ featuring 小林未郁

舞台公演五日目は、『イエーリ・オッジ・ドマーニ・ヒロシ』が日本風の暖簾をくぐり登場し、ギター弾き語りからスタートした。この公演のために制作したフリップと簡単なイタリア語を使った客席を巻き込んだ公演で会場を大いに盛り上げた。続いて『Yoko Hallelujah』のイエーリ・オッジ・ドマーニ・ヒロシとは違うスタイルのギター弾き語りと続いた。日本語の紹介や唐揚げをテーマにしたオリジナル曲を交えた軽快な歌唱で観客を盛り上げたまま休憩となった。後半は『REIKO&NAOMI』によるフルートとピアノのアンサンブルで再開。日本の伝統楽器の曲やアニメの曲等、幅広いジャンルの曲を披露し観客を魅了した。最後は『剣伎衆かむみ』と『小林未郁』によるステージショー。剣伎衆かむみの殺陣と小林未郁の歌による物語の進行を観客は静かに見入っており、カーテンコールでは大喝采となった。閉幕後の劇場のホワイエで出演者が観客との写真撮影に応じていたのが印象的だった。

**日 時** 10月23日(火) 20:30～22:30

**場 所** テアトロ・ピッコロ・レッジョ・プッチーニ

**参加者** チーム・オリエンタル和装、  
同志社大学マジック&ジャグリングサークル Hocus-Pocus、  
琴梢会、永見隆幸&メリー・アーティスト・カンパニー

舞台公演四日目は、『チーム・オリエンタル和装』のファッションショーから幕を開けた。ステージ上での伝統的な和装から同じ着物を使ったドレスへの早変わりには拍手がおき、その後イタリア人のモデルによるファッションショーで観客を魅了した。また、この公演がお目当てと思われるファッション関連の学生が大勢来場していた。続いて、『同志社大学マジック&ジャグリングサークル Hocus-Pocus』による音楽に載せたジャグリングとマジックのショー。1人目の音楽に合ったジャグリングから拍手が鳴りやむことなく大盛り上がりで4人によるショーが終了した。休憩をはさみ、『琴梢会』による箏、三弦、十七弦、尺八による日本の伝統芸能の披露。伝統楽器の音色にソプラノ歌手の歌声を載せた演奏から始まり、箏と尺八の見事な合奏で締め、その幅広い演奏に観客は聞き入った。最後は『永見隆幸&メリー・アーティスト・カンパニー』によるステージショーを披露。観客にとって馴染みのある歌によるショーで客席を大いに盛り上げて幕を閉じた。

**日 時** 10月25日(木) 20:30～23:00

**場 所** テアトロ・ピッコロ・レッジョ・プッチーニ

**参加者** 静岡大学管弦楽団、ソプラノデュオユニットいろは -iroha-、  
REIKO & NAOMI、イエーリ・オッジ・ドマーニ・ヒロシ、剣伎衆かむみ

舞台公演、そしてジャパンウィーク最終日 最初の演目は、『静岡大学管弦楽団』による現地学生とのアンサンブル。限られた時間のなかで言葉を超えた見事な合奏を披露。続いての演目は『ソプラノデュオユニットいろは -iroha-』による日本の古き良き時代の懐かしい童謡、唱歌、合唱を歌い上げ、響きわたる二人の歌声に会場は魅了された。続いての演目では、『REIKO & NAOMI』が美しい日本のメロディをピアノとフルートの絶妙なコラボレーションで柔らかな調べを奏でた。続いて『イエーリ・オッジ・ドマーニ・ヒロシ』によるイタリア語を交えた軽妙なトークとギター独奏で会場を和やかなで笑い溢れるムードに包み込んだ。そして舞台公演、ジャパンウィーク最終日、最後の演目は『剣伎衆かむみ』によるサムライパフォーマンス。イリュージョンから本格的なものまで、来場者への剣指導を交えながら、舞台公演の最終日にふさわしい大演舞を繰り広げ、大喝采のうちに閉幕となった。

| あわ工芸座 |



| 京都よさこい連 心粹 |



| 師勝太鼓「鼓っつ」 |



| 小林未郁 |



| 八重山古典音楽研究会・日旅連沖縄支部連合会 |



| 学生よさこいチーム おどりんちゅ |



| 金城学院大学書道部 |



| NPO法人 太鼓の楽校 太鼓一家 |



| 長沼静きもの学院熊谷校 |



| 備前長船 Japanese Sword |



| 愛知淑徳大学ウィンドオーケストラ |



| Stars with 三重アクターズ養成所 |



| 端唄花季会 北海道支部 |



| チーム・オリエンタル和装 |



| 永見隆幸&メリー・アーティストツ・カンパニー |



| 琴梢会 |



| 同志社大学 マジック&ジャグリングサークル Hocus-Pocus |



| REIKO&NAOMI |



| Yoko Hallelujah |



| 剣伎衆かむみ |



| イエーリ・オッジ・ドマーニ・ヒロシ |



| ソプラノデュオユニット いろは -iroha- |



| 静岡大学 管弦楽団 |



## 展示・実演

日 時 10月20日(土)～24日(水)  
場 所 トリノ東洋美術館、マダマ宮殿

トリノ市内中心部のトリノ東洋美術館を展示会場として開催した。5日間の日程で実施し、週末・平日ともに数多くの来場者が訪れた。特に夕方には会場内は来場者がすれ違うことが大変なくらいの盛況ぶり、美術館館内の定員の問題から入場を規制することが複数回あった。日本の伝統的な作品をはじめ、絵画、日本酒、現代カルチャーなど様々な分野の日本の文化を体感できるイベントとなった。

また、茶道実演は世界遺産のマダマ宮殿で3日間開催をした。専用ホームページでの予約開始後すぐに全席完売となり、各回とも満席で大変好評であった。

〈観客総数〉

トリノ東洋美術館 10月20日～24日 約5,000人  
マダマ宮殿 10月20日～22日 710人



## リボンカッティングセレモニー

日 時 10月20日(土) 11:00～11:30

場 所 トリノ東洋美術館

観 客 約300人

日本側 愛知和男会長、両宮雄治在ミラノ日本国総領事、二宮雅也理事、柏頼之理事、堀坂明弘理事

イタリア側 Francesca Leon トリノ市文化担当評議員、Elisabetta Rattalino トリノ博物館協会会長代理

展示・実演会場のオープンを記念して、10月20日の11:00よりトリノ東洋美術館の館内入口にてリボンカッティングセレモニーを実施した。両国の実行委員会メンバー紹介後、フランチェスカ・レオン評議員と愛知和男会長よりスピーチが行われた。その後リボンカッティングセレモニーに出席している各参加団体の紹介が行われた後、リボンカットで展示・実演がスタートした。

美術館入口にはすでに多くのトリノ市民の方々の入場を待つ列が出来ており、オープン直後から会場は大盛況となった。



# 茶道実演



## 表千家茶道花乃会教室

10月20日 (土)

一回 25 席、全 8 回のお点前披露と抹茶体験を行った。ステージに上がっての体験では、慣れない正座とお作法にトリノ市民は新鮮な感動を覚えていた。例年にも増して、体験後の写真撮影の希望が多かった。



## 煎茶道静風流

10月21日 (日)

一回 30 席、全 8 回のお点前披露と煎茶体験を行った。毎回、立ち見がでるほどの人気ぶりだった。ステージでは神妙な面持ちで体験に臨むトリノ市民が印象的だった。お家元による解説も興味深く、終了後にはたくさんの方々々が記念写真を撮られていた。



## 楽知会

10月22日 (月)

一回 30 席、全 4 回のお点前披露と抹茶体験を行った。立ち見も出る中、一回一時間のプログラムでは、見学者全員が自ら抹茶を点てたり、木杵を使って和菓子を作ったりと充実した体験となった。



## | 岩本和裁 |



日本の伝統衣装である着物作品を多数展示した。ワークショップは常に満員で大人気であり、着物の生地を使用した小物作りやひも結びを教えるなど、来場者も細かい作業ながら楽しそうに体験をしていて良い交流となっていた。

## | ASSOBOO |



日本をモチーフとした洋服や小物を展示し、「盆栽」や「折り鶴」、「足袋」など日本を連想させる作品を通し、日本文化を紹介した。来場者は、実際に洋服を試着したりアクセサリー作品を手にとって熱心に鑑賞し、きめ細やかな作品に感銘を受けていた。

## | 藤保会 |



「藤」を使用した額入り作品を2点展示した。独特なデザインの作品に立ち止まり、熱心に鑑賞する方々が多くいた。また、藤のコースターを作るワークショップは人気であり希望者が途絶えることはなく、大人も子供も先生に教えてもらいながら楽しんで作品を作っていた。

## | 専門学校ルネサンス・デザインアカデミー |



イラストレーション科の学生による日本のアニメやマンガを含むポップカルチャー文化の紹介およびワークショップを行った。ワークショップでは似顔絵をプレゼントしたり、缶バッジ制作体験等のコーナーを設けて交流しており、終日、人が途絶えることがないほどの人気であった。

## | 備前長船Japanese Sword |



日本刀の一大産地であった備前長船の紹介や、刀が出来上がるまでの工程の映像紹介などを行い、日本文化の一つである日本刀の魅力をたくさん紹介した。銅版に名前を彫るワークショップは、連日長蛇の列ができるほど人気であった。

## | 同志社大学マジック&ジャグリングサークル Hocus-Pocus |



ひもやカードを使ったマジックやバルーンアートを披露した。展示スペースも大盛況であったが、多目的ホールで行ったマジックショーでは、来場者も参加したマジックなども行い大変盛り上がり、笑い声もたくさん聞かれ素晴らしい交流となっていた。

| 岩橋知子押し花教室 |



押し花作品を10点展示した。細かな技術で出来上がった作品に、多くの方が足を止め熱心に鑑賞しており、何枚も写真を撮っていた。今年も来場者の方々に感想をノートに記入してもらっていたが、「素晴らしい」などのコメントが多数記載されており人気となっていた。

| 辻清子の店 |



人形、洋服、バッグ等の和装小物作品を多数展示した。日本の和装の伝統技術の紹介だけではなく、日本の織物の特徴を活かし現代風にアレンジした細かい手作業の作品に、「美しい」「素晴らしい」という声がたくさん聞かれ、来場者の方も感銘を受けていた。

| 一般社団法人日本ダイバーシティアート学会 |



全盲の人も含め全ての方が鑑賞できる砂絵の絵画の展示を行った。国旗やモナリザを描いた作品は、目で見るだけでなく触れて鑑賞することもでき、来場者も興味を示していた。視覚障がいを持つ方々も来場し楽しんで鑑賞いただくことができ、素晴らしい交流も実現した。

| 陶芸教室アトリエY (イグレッグ) |



茶器、兜、鯉のぼり、ひな人形等の作品を展示した。五月の節句やひなまつりなど、日本の風習にちなんだ作品に対し、作品の説明を興味深く聞く来場者も多く見られた。ワークショップは、粘土からの型取り体験を行い、大人だけでなく子供にも非常に好評の体験となっていた。

| 徳島県立阿南工業・阿南光高等学校 |



高校生たちによって開発された地元の竹を使用した竹細工作品を展示した。ライトを作るワークショップは非常に人気で予定より早く終了してしまうほどであったが、その後も折り紙やパズル等、様々な形で交流していただき双方とも終始楽しんでいる様子が見られた。

| 京都大学キャップ投げ倶楽部 |



ブースでは、実際にキャップを投げて的に当たるという体験ができるワークショップを実施した。多目的ホールを利用したワークショップでは、ボトルキャップを利用して野球をプレイするなど、トリノの来場者、特にお子様から喜ばれ良い交流の機会となった。

## 一般社団法人awa酒協会 |



岩手の地酒「南部美人 特別純米」および群馬の地酒「水芭蕉 純米大吟醸 翠」の試飲提供をした。現地ではあまり見られない日本酒を飲み比べできるということもあり、現地の来場者からはとても好評で、日本酒文化を堪能いただけた。

## 福井おむすび同好会 |



福井のお米「いちほまれ」と福井の食材を使用したおむすびを試食提供した。また、現地の方におむすびを握る体験も行い、用意していたお米があっという間になくなってしまいうほど大好評で、日本の食文化を体験いただける良い機会となった。

## 陶貴の会 |



作品の展示と実際に来場者に粘土でお皿を作ってもらおうワークショップを実施した。連日粘土の準備が間に合わないほど人気であった。また、多目的ホールでも同様のワークショップを開催いただき、来場者も粘土から自分のデザインを作り上げる過程を楽しんでいた。

## 関西学院大学絵画部弦月会 |



部員の作品展示とライブアートを披露した。展示作品は、絵画作品だけでなく、立体作品などもあり、来場者がとても興味深く見入っていた。ライブアートはとても好評で、完成した作品を来場者に提供するなどして大変喜ばれていた。

## 長瀬算命館 いけ花教室 |



フラワーアレンジメント作品を3点展示した。ブースでは実演も実施し、多くの来場者の興味を引いていた。また展示作品についても、一つ一つ丁寧に説明をいただいて、来場者がとても真剣な表情で聞き入っている姿が見られた。

## 赤坂なでしこ会 |



日本の伝統工芸である木目込み人形作品を10点展示した。日本らしい細やかな作品に、来場者も作品に近づいて真剣に見入っていた。「手まり」を作るワークショップでは、慣れない手つきながら楽しそうに体験する来場者が多く見られた。

｜オリママビーズの会｜



お雛様や羽子板など日本の伝統的な文化をビーズで立体的に表現したビーズ織作品を多数展示した。ブースおよび多目的ホールでは、実際に織機を使用した実演・体験を実施し、指先の細やかで繊細な作業に、来場者からは称賛の声が聴かれた。

｜熊本県立大学国際倶楽部｜



書道と折り紙の体験ブースを実施し、トリノの方々との文化交流を深めた。特に書道では、来場者の希望する言葉・好きな言葉を日本語で書いてお土産としてプレゼントするなど、絶えず人だかりができる人気のコーナーとなっていた。

｜池依 依依｜



力強い馬を描いた作品を2点展示した。来場者も生き生きと描かれた馬の作品に大変興味を抱いており、「この作品のアーティストに会いたい」という問い合わせも多く聞かれた。配布されていた作品のポストカードも大人気ですべてなくなってしまうほどであった。

｜名古屋市｜



トリノの姉妹都市である名古屋市の魅力を、ポスター掲示および各種パンフレット配布にてご紹介した。近年復元・公開された名古屋城本丸御殿や名古屋めし、テクノロジーなど多岐にわたる名古屋の魅力に、配布していたパンフレットもすべてはけてしまうほどであった。



## 交流プログラム

訪問交流プログラムの学校訪問については8団体、老人ホーム訪問については4団体、テーマ別訪問については5団体が参加し、各団体ともに心がふれあう交流を行った。

### 長瀬算命館いけ花教室

老人ホーム

日 時 10月21日(日) 10:00~11:00

場 所 老人ホームRSA Carlo Alberto

参加者 約40名

長瀬算命館いけ花教室は老人ホームの入居者に生け花の紹介を行い、交流を行った。基本的な生け花の説明をした後、伝統的な生け花とイタリアの人気歌手 Gianni Morandi 氏をイメージしたオリジナル作品を披露した。参加者は皆初めて見る生け花の制作過程に興味深く見ていた。最後には装飾がなく殺風景であった施設の集会所がこの生け花によって華やかになったとの喜びの声をいただき、また来てくださいとの声が聞かれた。また、施設からは持参したものはすべて置いていくよう申し出があったが、日本での生け花教室では持ち帰るのが常であるとの説明があり、片付けにも文化の違いが出たのが印象的だった。



### NPO法人太鼓の楽校太鼓一家

テーマ別

日 時 10月22日(月) 9:30~13:00

場 所 障害者支援施設La Fabbrica Del Chinino

参加者 約40名

NPO 法人太鼓の楽校太鼓一家は障害者支援施設で太鼓の演奏とワークショップを行った。到着後、まず施設から施設内の案内と障害者への支援活動が紹介され、日本側の参加者がその活動についていくつかの質問を行った。その後、トリノ市内の他の支援施設からも集まった参加者に太鼓の演奏を披露した。皆が太鼓のリズムに興奮し、日本側参加者に教わりながら楽しそうに太鼓を叩いていた。太鼓のワークショップの後に、日頃からアート活動をしている7名と一緒に作品作りを行った。最後に日本側参加者から書道作品がプレゼントされ、交流が終了した。施設は貴重な体験に感謝していた。





## NPO法人太鼓の楽校太鼓一家

学 校

**日 時** 10月22日(月) 15:00~16:00  
**場 所** 小中学校 Convitto Nazionale Umberto I  
**参 加 者** 小学生 約40名

NPO 法人太鼓の楽校太鼓一家は小学生と太鼓と書道のワークショップを行った。太鼓のワークショップはステージのある部屋で行い、まずは日本側参加者による演奏の後、太鼓の体験教室となった。生徒は皆大盛り上がりで、楽しそうに太鼓を叩いていた。書道のワークショップは教室で行ったが、生徒は始まる前から興奮が抑えきれない様子であった。生徒は説明が始まるとようやく静かになり、道具の使い方と筆使いを教わり、好きな漢字を見本から選んで書道を行った。各生徒が書き上げた書を教室の壁に貼り、最後に生徒に半紙等が贈られ交流が終了した。

## 専門学校ルネサンス・デザインアカデミー

テーマ別

**日 時** 10月22日(月) 9:45~12:30、17:00~19:00  
**場 所** 専門学校 Scuola Internazionale di comic  
**参 加 者** 約60名

専門学校ルネサンス・デザインアカデミーは、まず午前中にコミック専門学校 Scuola Internazionale di comic の生徒との交流を行った。最初日本側の参加者はイタリアの生徒の隣に座ることにさえ恥ずかしがっていたが、両校の学校紹介が終わり、緊張がほぐれた頃には、それぞれの専門知識を英語やジェスチャーを交えながら交換していた。その後、色紙に互いの似顔絵を描き、交流が終了した。同じ分野で学んでいる生徒同士が違う国で学んでいる者の技法を興味深く見ていたのが印象的であった。夕方にはトリノ市在留の漫画翻訳家 Massimo Soumarè 氏による日本の漫画やアニメがイタリアでどのように受け入れられているかをテーマとした講義を受けた。



## チーム・オリエンタル和装

テーマ別

**日 時** 10月22日(月) 12:40~15:15  
**場 所** トリノアウトレットビレッジ Torino Outlet Village  
**参 加 者** 約10名

チーム・オリエンタル和装はトリノ市にあるアウトレットビレッジの関係者とファッションを通じての交流を行った。まずは昼食を一緒に取りながらファッションに関する情報交換を行い、その後イタリアを代表するファッションブランドの店舗を案内された。ISAIA Napoli ではワークショップを行い、日本側の参加者は帯の結び方について、イタリア側はネクタイの締め方についてのデモンストレーションを行った。ジャパンウィークのパンフレットを見たトリノアウトレットビレッジから日本のファッション関連の参加者と交流がしたいとの打診がトリノ市を通じてあり、今回の交流となった。

## チーム・オリエンタル和装

テーマ別

**日 時** 10月22日(月) 17:00~19:30  
**場 所** 専門学校 Istituto Europeo di Design  
**参 加 者** 約50名

チーム・オリエンタル和装は、デザインの専門学校 Istituto Europeo di Design で帯の結び方のワークショップを開催し交流を行った。ファッション、デザイン、アクセサリ専攻で和装に興味のある生徒が参加していた。生徒は2人1組となり、日本側参加者からの説明を聞きながら、互いに帯を結んでいた。生徒を入れ替えて2回行ったが、ワークショップの最後に希望者をモデルにし振袖からドレスに変化させる技術を披露したが、どちらもその技術に驚きの声が上がっていた。生徒の和装に関する興味は高まり、翌日に舞台公演があることを聞き、そちらも見に行くとの声が多くあがった。



## 徳島県立阿南工業・阿南光高等学校

学 校

日 時 10月22日 (月) 14:30~16:00

場 所 小中学校 Convitto Nazionale Umberto I

参 加 者 小学生 約40名

徳島県立阿南工業・阿南光高等学校は阿南地区の特産の竹を材料とした和紙を用いたミニランタンづくりを小学生と行った。まずは日本側の参加者が各自イタリア語で自己紹介を行い、その後作り方の説明をしてミニランタンづくりを始めた。先生もワークショップに参加し、生徒も先生も皆楽しそうにミニランタンづくりを行った。完成後には日本側の参加者が「じゃんけん」の説明をして、ランタンを賞品としたじゃんけん大会を行った。生徒を途中入れ替えながら40名以上の生徒と有意義な交流をすることが出来た。ワークショップ終了後、簡単な校内の案内があり、校長にプレゼントを渡し終了した。



## 長沼静きもの学院熊谷校

学 校

日 時 10月22日 (月) 15:30~16:30

場 所 高校 Liceo Scientifico Internazionale

参 加 者 約10名

長沼静きもの学院熊谷校は高校生と着物を通じての交流を行った。まず着物のモデルを希望する生徒を集め、着物の着付けと女性モデルにはヘアメイクを施した。その後、その着物の披露をし、日本側の参加者が着物の種類や着物を着る場面等着物にまつわる説明や一人での帯の締め方の説明を行った。また、浴衣を用いてのデモンストレーションを教室で行った。生徒は着物に関する興味が高く、着物の色の意味や和装小物について様々な質問がされた。部屋が若干狭くまたマイクが用意されていなかったのが残念ではあったが、最後に日本側の参加者からのお土産まであり生徒は大満足で交流が終了した。

## 師勝太鼓「鼓っつ」

学 校

日 時 10月22日 (月) 15:40~16:40

場 所 小中学校 Convitto Nazionale Umberto I

参 加 者 小学生 約120名

師勝太鼓「鼓っつ」は小学生一学年の約120名とワークショップを行った。学校に太鼓が到着していないトラブルがあったため、最初の15分は約60名の生徒と「かえるの唄」を手拍子をしながら一緒に歌い、その後は折り紙教室を行い、生徒は喜びながら折り紙を折っていた。太鼓が到着した後は60名の生徒が加わり、約120名の生徒を前に太鼓の演奏を行った。生徒は初めて聴く迫力のある太鼓の音とリズムに大盛り上がりとなった。演奏後は太鼓の体験教室を行い、生徒はもちろんのこと先生も参加して皆楽しそうに太鼓を叩いていた。交流の最後に参加した生徒が皆日本語で「ありがとう」と言っていたのがとても印象的であった。



## 陶貴の会

老人ホーム

日 時 10月22日 (月) 16:00~17:00

場 所 老人ホームRSA Carlo Alberto

参 加 者 約20名

陶貴の会は老人ホームの入居者にまず簡単に自己紹介をした後、早速スポンジを使った方法での陶芸についての説明をしてワークショップを開催した。当初は作業に参加出来るほど元気な入居者は少なく参加者は数名程度に留まるとの話であったが、陶貴の会の手法は年配の方にも易しく15名以上の方が参加したため、施設の担当者が驚いていた。皆楽しそうに制作をしており、自身で作ったものを最後に返すのが名残惜しそうであった。その後施設が用意してくれた軽食を食べながら、トリノの印象や日本の出身地の話をしながら歓談し和やかな雰囲気での交流が終了した。

## 端唄花季会北海道支部

老人ホーム

日時 10月23日 (火) 10:00~13:00

場所 老人ホームRSA Carlo Alberto

参加者 約60名

端唄花季会北海道支部は老人ホームの入居者と日本文化を通じての交流を行った。最初の30分はステージにて端唄を披露し、イタリア側の参加者は初めて聴く端唄に聞き入っていた。その後、場所を移して書道・投扇興・折り紙の3つのワークショップを行った。日本側の参加者が身振り手振りで入居者に説明をし、皆楽しそうに体験や写真撮影をしていた。また車椅子の方が多いため3つのワークショップ間の移動が若干窮屈になったが、ワークショップが3種類あったため、50名以上の方が自分の出来るいづれかに参加することが出来た。最後、施設が用意してくれた軽食を食べながら、和やかに交流が終了した。



## REIKO & NAOMI

学校

日時 10月23日 (火) 11:15~11:50

場所 小中学校 Convitto Nazionale Umberto I

参加者 小学生 約100名

REIKO&NAOMIは小学生3クラスの約100名に最初は日本の曲を4曲、説明を交えて披露した。始めの2曲は生徒に緊張もあり、また初めて聴く日本語の曲のため戸惑っている様子であったが、残りの2曲の「もののけ姫」と「エヴァンゲリオン」の演奏の頃には手拍子しながら皆楽しそうに聞いていた。最後の15分は生徒15名ほど「giro giro tondo」や「かごめかごめ」等イタリアと日本の伝統的な歌遊びをして交流を行った。事前のステージの準備が不足していたため交流時間が短くなってしまったのが残念であったが、多くの生徒は日本に興味を持ったようで日本側の参加者に日本の歌や日本の生活に関して色々な質問をしていた。

## 剣伎衆かむみ

学校

日時 10月23日 (火) 14:30~15:30

場所 小中学校 Convitto Nazionale Umberto I

参加者 中学生 約40名

剣伎衆かむみは中学生を対象に殺陣のパフォーマンスの披露と竹刀を使ったワークショップを行った。まずは剣伎衆かむみが基本的な動作を披露した後、その後生徒と竹刀を使ったトレーニングを行った。1回20名の生徒とのワークショップであったが、生徒全員剣伎衆かむみの剣伎に興味を持ち、熱のこもったレッスンになったため、残念ながら時間が足りなくなってしまった。生徒を入れ替えて行った2回目も1回目と同様に皆熱心に参加していた。どちらの回も最後に質疑応答の時間を設けたが、生徒は皆時間が許す限り様々な質問をしており、日本の剣技に対する関心の高さが感じられた。



## 一般社団法人 日本ダイバーシティアート学会

テーマ別

日時 10月23日 (火) 15:30~17:30

場所 視覚障害者協会 Istituto per la Ricerca,  
la Formazione e la Riabilitazione

参加者 約15名

一般社団法人日本ダイバーシティアート学会はイタリアで視覚障害者の社会的参加を目的としてリサーチ、育成、リハビリをしている協会との交流を行った。まずは日本側の参加者が活動内容の紹介をし、続いて持参した作品を用いてその手法についての説明を行った。イタリア側の参加者の関心は高く、質疑応答の時間では独自に開発したアート手法の命名の由来等様々な質問がされていた。その後のワークショップでは参加者全員で作品の共同制作を行った。今回の訪問には作品の一部しか持参出来なかったため、翌日他の作品を展示会場に視察しに行く約束をして交流が終了した。

## ソプラノデュオユニットいろは-iroha-

学 校

日 時 10月24日 (水) 14:30~15:10

場 所 小中学校 Convitto Nazionale Umberto I

参 加 者 小学生 約100名

ソプラノデュオユニットいろは-iroha-は小学生3クラス約100名と日本の歌での交流を行った。日本側の参加者のお二人は最初に日本の歌をイタリア語で説明を交えながら5曲披露した。生徒が小学校低学年だったため途中騒がしくなってしまったのが残念ではあったが、幼い頃に日本語の歌を聞く貴重な経験となった。また、生徒は二人の着ている日本の衣装も気になったようで興味深く見ていた。最後の10分は、生徒に「さくらさくら」を教えて全員で合唱した。生徒は初めて日本語で歌うことに興奮しており、とても楽しそうに歌っていた。学校は今回のために二人がイタリア語を勉強してきてくれたことに対して感謝していた。



## 静岡大学管弦楽団

テーマ別

日 時 10月24日 (水) 19:30~21:30

場 所 大学 Collegio Einaudi

参 加 者 8名

静岡大学管弦楽団は Collegio Einaudi の有志8名と10月25日の合同演奏に向けての練習を行った。楽譜を送付して演奏の技術面については事前にメールで交信していたが、翌日に本番を控え、これが最初で最後の合同練習となった。Collegio Einaudiの授業が終わった後、互いに簡単な自己紹介を行い、早速練習に入った。練習に言葉の問題はなく、英語と音楽で意思疎通を図っていた。イタリア側の参加者は初めて他国の人と一緒に演奏することに興奮しており、とても貴重な体験となった。短い練習時間ではあったが、本番の舞台公演では両国の参加者が息のあった演奏を披露して、大勢の観客から拍手を得ていた。



## イエーリ・オッジ・ドマーニ・ヒロシ

老人ホーム

日 時 10月25日 (木) 10:10~11:10

場 所 老人ホームRSA Carlo Alberto

参 加 者 約45名

イエーリ・オッジ・ドマーニ・ヒロシは老人ホームの入居者と日本の歌での交流を行った。最初の30分はギターの弾き語りの公演を行い、参加者は初めて聴く日本語に興味を持ち、その歌詞の意味について質問をしていた。演奏の終わりの2曲は、イタリアの曲をイタリア語と日本語の交互で歌い、イタリア側の参加者には日本側の参加者に習った日本語と一緒に歌う人や涙しながら聞き入る人がいた。会場のアンコールに応え、もう1曲歌って大盛り上がりで公演は終了した。その後、施設が用意してくれた軽食を食べながら、日本の歌やイタリアの歌手に対する歓談をし、最後に再度盛大な拍手をもらい交流が終了した。



## Yoko Hallelujah

学 校

日 時 10月25日 (木) 15:30~16:15

場 所 高校 Liceo Scientifico Internazionale

参 加 者 約60名

Yoko Hallelujahは高校生と日本の歌での交流を行った。まずは簡単な自己紹介の後、2曲ギターの弾き語りをを行った。その後、歌詞を用いてイタリア語と日本語の発音の類似性についての説明を行った。続いて日本側の参加者のオリジナル曲を2曲披露して、今度はその歌詞で日本の食べ物やひらがなについて分かりやすく説明した。最初は初めて聴く歌に戸惑っていた生徒が徐々に盛り上がり、最終的にはアンコールがかかるなど、大盛り上がりで終了した。日本側の参加者が最後にCDをプレゼントして終わりにしようとしたところ、サインが欲しいとの要望があり急遽サイン会となった。生徒も先生も皆大喜びで貴重な交流となった。

# 西日本友好親善訪問団 交流プログラム

日本語を学んでいるトリノ大学の学生との訪問交流会と学生の案内によるトリノ市内観光

日 時 10月19日(金)・22日(月)・25日(木) 場 所 各ホテル→トリノ大学(訪問交流会)→学生の案内によるトリノ市内観光→ホテル



トリノに到着した翌日は、ジャパンウィークの目的のひとつでもある国際親善交流の機会として、トリノ大学外国語外国文学近代文化学科で、現在日本語を学ばれている学生との訪問交流会を開催した。交流会では学生が「何故日本語に興味を持ったのか」、「日本について一番関心のあるもの」、「将来日本とどう関わっていききたいか」などを中心にスピーチを行い、参加者一同興味深く聞き入った。スピーチの後は参加団体の代表者がスピーチへの感想や意見、質問を行い、最後は日本から持参したお土産を手渡し、交流会は終了した。交流会終了後はスピーチを行った学生が各参加団体に1名ずつ観光ガイドとして同行し、普段から慣れ親しんでいるトリノの街並みを日本語で案内。カステロ広場を中心に、「王宮」や「マダマ宮殿」、「ドゥオーモ」、「青空市場」などトリノの主な見どころを徒歩にて見学し、参加者はトリノの美しい町並みに感銘を受けた。



## トリノナイト

日 時 10月19日(金)・22日(月)・25日(木)

場 所 世界遺産「ストゥピニーゼ宮殿」

今回ご参加いただいた西日本友好親善訪問団の参加者に感謝の意を表するとともに、地元とのより一層の親善交流を図るため、かつてサヴォイア家の宮殿であった世界遺産「ストゥピニーゼ宮殿」にて夕食会「トリノナイト」を開催。日本側は19日と22日が堀坂明弘氏/株式会社日本旅行代表取締役社長、25日が岡本隆氏/株式会社日本旅行取締役兼執行役員西日本営業本部長、現地側は19日と22日が雨宮雄治氏/在ミラノ日本国総領事館総領事、マルチェッラ・ガスパルドーネ氏/トリノ市観光局マーケティング&コンベンションビューローマネージャー、25日がトルメーナ・アレッサンドラ氏/トリノ市観光局ツーリズムプロモーション・マーケット開発所長のご挨拶でトリノナイトが開始。参加者の皆様にはイタリア創作料理をご堪能いただく一方、食事の合間には地元の少年少女40名による合唱が披露され、特に最後の曲「ふるさと」は、異郷の地で聞く日本語の歌声が参加者一同に大きな感動を与えた。そしてパーティーの締めくくりとして行われたトリノ・ミラノ在住の日本人歌手によるイタリアオペラ曲ミニコンサートでは、会場中がその情熱的且つ迫力のある歌声に魅了され、大盛況のうちにトリノナイトはおひらきの時間となった。



## 編集後記

国際親善協会の常勤役員が全員入れ替わって初めてのジャパンウィーク運営となりました。不慣れな中、参加団体の皆様のご理解、イベントスタッフのリード、現地コーディネーターとボランティアの頑張りに支えられ、新しい時代の一步を踏み出すことができました。

一人ひとりの熱き心が、真の国際親善を果たすということを肝に銘じ、本事業を持続的に発展させ続けていきたいと思っております。新しい時代に向けてチャレンジしていくジャパンウィークを、今後とも温かくご支援ください。

助 成



公益財団法人 双日国際交流財団

主 催



公益財団法人 国際親善協会

〒112-0003 東京都文京区春日 2-10-15 志知ビル 4 階  
TEL : 03-5802-0351 FAX : 03-5802-0353

E-mail [info@iffjapan.or.jp](mailto:info@iffjapan.or.jp)

URL <http://www.iffjapan.or.jp>